

# 濱口プラン ～変革への挑戦～

**JSTは、世界トップレベルの研究開発を行うネットワーク型研究所として、未来共創イノベーションを先導します。**



国立研究開発法人  
科学技術振興機構  
理事長 濱口道成

国内外の大学・研究機関・産業界等との緊密なパートナーシップを深め、国民の生活や社会の持続的な発展に貢献するため、新たな飛躍に向けた改革を断行します。

## I. 独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所の確立

変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスクな課題に失敗を恐れず取り組みます

1. 戦略的マネジメントシステムを持つネットワーク型研究所の確立
2. イノベーション・エコシステムの構築と産業界・社会への橋渡し機能の強化
3. オープンサイエンスへの対応
4. 国際化のさらなる強化

## II. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

社会との対話・協働や客観データの分析を通じ、科学への期待や解決すべき社会的課題を「見える化」して、先見性に満ちた研究開発戦略を立案・提言します

1. 科学技術イノベーションに関するインテリジェンス機能の強化
2. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

## III. 未来を創る人材の育成

科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材を育成します

1. ハイリスク・挑戦的な研究開発を主体的にプロデュースする人材の育成
2. 研究開発プログラムを通じた若手研究人材の育成
3. イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進
4. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

## IV. 地域創生への貢献

地域の特色に根ざしたイノベーション・エコシステムを構築し、自律的で持続的な地域社会の発展に貢献します

1. イノベーション創出を通じた地域社会の持続的な発展への貢献

## V. JSTの多様性・総合力を活かした事業運営

JSTの持つ多様性と総合力を活かし、一丸となって効果的・効率的に事業を展開します

1. JSTの総合力の発揮
2. 良質な科学技術と研究の公正性の確保
3. リスク対応の強化と業務の効率化
4. 顔の見えるJSTへ

# I. 独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所の確立

変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスクな課題に失敗を恐れず取り組みます

## 1. 戦略的マネジメントシステムを持つネットワーク型研究所の確立

- ① 研究開発戦略策定から新たな潮流を生み出す革新的研究、産業界・社会への橋渡しまで切れ目なく繋ぐプログラム運用を実現
- ② クロスアポイントメント制度等を活用し、各々の研究開発プログラムにJSTが雇用するプログラムマネージャー（PM）を配置して、JSTが主体的に研究開発を推進
- ③ ハイリスク・挑戦的な研究開発プログラムの拡充・強化
- ④ 全ての研究開発プログラムを横断的に統括する司令塔組織の新設

## 2. イノベーション・エコシステムの構築と産業界・社会への橋渡し機能の強化

- ① 研究開発の様々なフェーズにおいて、戦略的知財マネジメント、本格的な産学共同、ベンチャー立上げ等を強化
- ② 拠点型プログラムの推進により、大学・研究開発法人改革を先導

## 3. オープンサイエンスへの対応

- ① オープンサイエンスの潮流を踏まえ、データ駆動型の研究開発を推進
- ② 様々な科学技術情報収集と活用のハブ機能を充実

## 4. 国際化のさらなる強化

- ① 国境を越えて人・組織の協働を促す国際化を進め、研究開発力・研究開発基盤を強化
- ② 地球規模課題の解決や我が国の科学技術外交の推進に貢献

## Ⅱ. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

社会との対話・協働や客観データの分析を通じ、科学への期待や解決すべき社会的課題を「見える化」して、先見性に満ちた研究開発戦略を立案・提言します

### 1. 科学技術イノベーションに関するインテリジェンス機能の強化

- ① 総合的な研究開発戦略立案のためシンクタンク機能を一体的に運用
- ② グローバルな研究開発ネットワークへの戦略的な参画
- ③ 国内外の政策や研究者・研究開発の最新動向を把握・分析し、先見性ある研究開発戦略を立案・提言
- ④ 研究開発成果計測のための指標の策定と導入

### 2. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

- ① 自然科学と人文社会科学との融合を促進し、未来社会を創造・先導する研究開発戦略を立案・提言
- ② 国内外のステークホルダーとともにサイエンスアゴラをはじめとする継続的な対話・協働の場を形成

# Ⅲ. 未来を創る人材の育成

科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材を育成します

## 1. ハイリスク・挑戦的な研究開発を主体的にプロデュースする人材の育成

- ① 挑戦的な研究開発プログラムを主体的にプロデュースする人材（PM:プログラムマネージャー等）を育成
- ② 大学・研究開発機関・企業等と積極的に連携し、マッチングや支援等を行う様々なイノベーション人材を育成
- ③ 起業家を育成・支援するプログラムをさらに強化

## 2. 研究開発プログラムを通じた若手研究人材育成

- ① 研究開発プログラムの拡充・強化を通じ、未来を切り拓く若手リーダーを育成
- ② ビッグデータやAI等、急速に進展しつつある領域において若手研究人材の発掘・登用を促進

## 3. イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進

- ① 国際的な頭脳循環の促進（外国人研究者の積極的登用等）
- ② 女性研究者の育成等を通じた多様性の確保

## 4. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

- ① 中学・高校と大学・研究開発機関等の連携強化による、課題の探求・解決力の向上（出る杭を伸ばす）
- ② 次世代人材育成事業と国際交流事業の連携によるグローバル人材の養成

## IV. 地域創生への貢献

地域の特色に根ざしたイノベーション・エコシステムを構築し、自律的で持続的な地域社会の発展に貢献します

### イノベーション創出を通じた地域社会の持続的な発展への貢献

- ① 地域の大学や研究機関を起点にした革新的な技術の創出や人材育成、産業の振興を推進
- ② JSTの有する全国的なネットワークを活かし、地域の大学・研究機関のシーズと企業のニーズをマッチングさせる仕組みを強化
- ③ イノベーション創出を通じ、震災からの復興・創生へ引き続き貢献
- ④ 人口減少や超高齢化等の社会的課題に対して、大学や地方行政等と連携し解決策を探求・実装

# V. JSTの多様性・総合力を活かした事業運営

JSTの持つ多様性と総合力を活かし、一丸となって効果的・効率的に事業を展開します

## 1. JSTの総合力の発揮

- ① JSTの活動を最適化するための組織改革を推進
- ② 外部機関との人事交流の促進、海外機関への派遣等による世界で活躍する職員の育成

## 2. 良質な科学技術と研究の公正性の確保

- ① 科学技術に対する社会からの信頼回復
- ② 研究倫理教育の着実な推進

## 3. リスク対応の強化と業務の効率化

- ① リスク対応とコンプライアンスの推進
- ② イノベーション先導に資する事業への選択と集中
- ③ 経営資源配分の最適化をさらに推進

## 4. 顔の見えるJSTへ

- ① JSTの顔が見える広報活動の戦略的展開
- ② 職員による外部に向けた活動、情報発信の促進

# 濱口プラン・アクションアイテム ～ 2019年度以降の重点的取組み ～

科学技術イノベーションの創出を推進し、国民の生活や社会の持続的な発展(Society5.0やSDGs)に貢献

JSTは、2016年4月に策定した『濱口プラン』の下、様々な改革に取り組んできました。今後、さらに以下の取組みを推進し、ネットワーク型研究所としての機能強化を図ります。

## 組織としての目利き力(=調査・分析能力)の強化

- 社会に大きな変革をもたらすイノベーションにつながる可能性のある発明/発見を見極めて、育てていく体制をつくります。
- SDGs等の社会課題の解決に貢献する研究開発に取り組めます。

## イノベーションを生み出すためのダイバシティの強化、世界とのネットワークの構築の加速

- 科学技術イノベーションに携わる人財の多様性(ダイバシティ)向上による新たな価値創造を強化します。
- 100%Globalの取組をさらに加速します。

## 研究者とともに価値を創るイノベーション人材の育成

- 研究成果を社会的価値に転換するためのエキスパートの育成を強化します。
- AI人材の育成を強化します。

## 事業運営の品質向上、コンプライアンスの推進、組織の総合力の発揮

- 事業運営の品質を向上します。
- コンプライアンスを推進します。
- 総合力を発揮できる組織を目指します。

## ネットワーク型研究所に相応しい研究開発マネジメントの強化

- 新しい価値を作り出していく研究開発マネジメント能力を強化します。
- 新しい時代の研究活動を支える情報基盤を整備・提供します。

## タイムリーなELSIへの対応

- AIやゲノム編集など、エマージングテクノロジーに関連するELSIにタイムリーに対応します。

## 地方創生のためのイノベーションの推進

- 地方創生に貢献する、地方発イノベーションの普及に努めます。
- 全国の大学が進める特色あるイノベーション拠点作りを支援します。

# 濱口プラン・アクションアイテム ～ 2019年度以降の重点的取組み ～ (1)

## 組織としての目利き力(=調査・分析・判断能力)の強化

➤ 社会に大きな変革をもたらすイノベーションにつながる可能性のある発明／発見を見極めて、育てていく体制をつくります。

- 領域設定、テーマ設定の際の目利き機能強化
- 課題採択の際の目利き機能強化
- 有望な成果を次のプログラムに「つなぐ」目利き機能強化

➤ SDGs等の社会課題の解決に貢献する研究開発に取り組めます。

- 社会課題の解決に向けて外部と連携・共創
- 社会課題解決につながる研究領域の探索・設定
- SDGsの達成に向けた共創的研究開発の推進
- 大規模災害等の突発事由による緊急を要する研究等の実施に柔軟に対応

## ネットワーク型研究所に相応しい研究開発マネジメントの強化

➤ 新しい価値を作り出していく研究開発マネジメント能力を強化します。

- JST内のグッドプラクティスの整理・共有、プロジェクトの品質向上
- 担当者の役割・業務の再定義。適切な研修評価による個人のマネジメント能力の向上
- ICTを活用した戦略策定や研究開発等の事業運営の効率化・高度化による成果最大化

➤ 新しい時代の研究活動を支える情報基盤を整備・提供します。

- AI時代に不可欠な科学技術情報の機械可読化の推進
- オープンサイエンス支援のための情報流通環境の高度化



# 濱口プラン・アクションアイテム ～ 2019年度以降の重点的取組み ～ (2)

## イノベーションを生み出すためのダイバシティの強化、世界とのネットワークの構築の加速

- 科学技術イノベーションに携わる人材の多様性（ダイバシティ）向上による、新たな価値創造を強化します。
  - 女性のトップリーダーの登用
  - 若手研究者への重点支援
  - 「海外研究者の短期招へいと国内研究者の派遣」のオントップ支援の常設化運営の効率化による成果最大化
- J S Tにおける100%Globalの取組をさらに加速します。
  - 成果最大化及び国際社会における日本の研究プレゼンス確立・拡大を視野に入れた国際協力の推進
  - 研究成果の国際発信力強化

## タイムリーなELSIへの対応

- A I やゲノム編集など、エマージングテクノロジーに関連するE L S Iにタイムリーに対応します。
  - CRDSやRISTEXにおける定常的な検討体制の強化、研究事業との連携

## 研究者とともに価値を創るイノベーション人材の育成

- 研究成果を社会的価値に転換するためのエキスパートの育成を強化します。
  - JSTのイノベーション人材育成事業の一体的運営・強化
- A I 人材の育成を強化します。

※ 2019年4月追補

# 濱口プラン・アクションアイテム ～ 2019年度以降の重点的取組み ～ (3)

## 地方創生のためのイノベーションの推進

- 地方創生に貢献する、地方発イノベーションの普及に努めます。
  - URA等へのクロスアポイントメントによる地方大学との連携強化。有望な技術シーズの発掘、地域ニーズとのマッチング強化
  - マッチングプランナー（MP）の活動を支援するコンシェルジュ機能の整備
- 全国の大学が進める特色あるイノベーション拠点作りを支援します。
  - COI等の拠点事業の一体的運用（大括り化）の推進による、グッドプラクティスや課題の共有、最適な資源配分、定期的公募の実現

## 事業運営の品質向上、コンプライアンスの推進、組織の総合力の発揮

- 事業運営の品質を向上します。
  - 適切なりスク管理と業務効率化により、事業成果を最大化する組織を構築
  - 機構内業務におけるICT及び情報利活用の推進
  - 事業共通業務の特性を踏まえた全体最適化のための機構内ルールの作成や組織見直しの推進
- コンプライアンスを推進します。
  - 法令等の遵守と、法令の目的である社会的要請・社会通念・社会倫理等の遵守
- 総合力を発揮できる組織を目指します。
  - 個々の職員のスキル・能力の向上と、総合力を発揮する組織の構築